

札幌の国際交流を支えるもの～外国語ボランティアネットワークから見る未来・札幌～

6年 社会科

I 実践の目指しているもの

子供たちは「国際交流を深めるためには相手の文化を知ること」と捉えている。本時では、国際交流を深めるには、「相手国の文化だけでなく、自国の文化を知り大切にしていくことも重要である」ことが分かる。

II 研究の内容

1 題材名（単元名）

世界の人々と共に生きる

2 題材の目標（単元の目標）

- 国際協力（国際連合、ユニセフ等）の仕組みや働き、国際交流の意義について意欲的に調べ学習している。【社会的事象への関心・意欲・態度】
- 国際協力や国際交流によって地球環境や平和を守る活動にどうつながるか考察し、表現している。【社会的な思考・判断・表現】
- 国際協力や国際交流について資料から読み取り、表現している。【資料活用の技能】
- 概念的知識「国際協力」「国際理解」を習得している。【社会的事象についての知識・理解】

3 題材の指導計画（6時間扱い）

ユニット1 国際協力がって何だろう？

① 世界中で起きている災害、紛争、貧困をなくすには？

地球環境や平和を守るためにどのような努力がされているのだろうか？

青年海外協力隊・ODA・NGO・・・資金や技術を援助

② ユニセフの取組を調べよう

どうしてユニセフは教育にお金をかけているのだろうか？

→子どもの自立を 途上国の自立を・・・「魚」より「魚の捕り方」を教える。

途上国には「教育による人づくり」により自立していく援助が必要なんだね。

【ユニット2 国際交流】

世界の人々がもっと仲良くなるには？

① 私たちのまち札幌市の取組

- ・札幌市国際プラザ→札幌市外国語ボランティアネットワーク

【本時】なぜ、石川さんは小学生に英語で時計台紙芝居を上映しているの？

〈外国語ボランティアの大切さを伝えたい〉 〈時計台の価値を伝えたい〉

国際交流を深めるには外国の文化だけでなく、自分の文化も大切にする。

- ・ボランティアの大切さを伝えたい
- ・時計台の価値を伝えたい

4 本時について

(1) 本時の目標

札幌市外国語ボランティアネットワーク石川さん取組について調べ、国際交流を深めるためには、外国の文化だけでなく、自国の文化を尊重することも大切であることが分かる。

(2) 本時の展開

	45分で全員が分かるための手だて	教師の指示・発問
問題の把握	<ul style="list-style-type: none">児童が外国語紙芝居を見ている様子を提示。ゴール、学習問題、キーワードを提示。	<p>異文化交流を深めるにはどのようなことが大切なのだろう？</p> <p>○札幌市外国語ボランティアネットワークの石川美代子さんが「時計台紙芝居」を小学校でも英語で上映。 国際プラザの基本理念は「外国籍市民と外国人来訪客を支えること」になっているのに・・・</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">なぜ石川さんは、英訳した時計台紙芝居を札幌の小学生にも上映しているの？</div>
問題の追究	<ul style="list-style-type: none">石川さんの考えを「外国語ボランティアの大切さ」と「時計台の価値」という視点から捉えさせる。「札幌から離れることが大切」の意味を問い、自国の文化を大切にしていることに目を向けさせる。実際に外国人との交流を想定させる。	<p>〈外国語ボランティアの大切さを伝えたい〉</p> <ul style="list-style-type: none">今後も札幌で増加する外国人観光客。 →外国語ボランティアの活動そのものを知ってほしい。 →将来、理解・協力できる人材を増やしたい。 <p>〈時計台の価値を伝えたい〉</p> <ul style="list-style-type: none">時計台は札幌の象徴。私たちのふるさと札幌のよさを知ってほしい。 →生まれ育ったまち札幌を誇りに。時計台は札幌の象徴→札幌市民憲章。 「私たちは時計台の鐘が鳴る札幌の市民です」 <p>○昨年度、外国人観光客が大幅に増加。 ○石川さんが大切にしているのは『おもてなし』の心。 『真のおもてなし』は札幌から離れること」とはどういう意味？</p> <ul style="list-style-type: none">他のまちの良さが分かる。札幌の良さが改めて分かる。 <p>○今後自分が外国の人とどんな交流ができるだろうか？</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none">振り返りを書かせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">異文化交流を深めるには外国の文化だけでなく、自分の国やまちの文化を尊重することも大切。</div>

5 実践のポイント

(1) 外国語ボランティアの活用

本時にゲストティーチャーを登場させるには、2つのポイントがある。

一つ目は、綿密な打ち合わせである。そこから、授業のどの場面で、どのようにお話ししていただくかを定める。もう一つは、どのような意図で授業を行っているか、そのねらいを十分にわかっていただくことである。ゲストティーチャーは授業を構成する上で有効な手だてとなり得る。任せきりにせず、教師がイニシアチブをとり、しっかり進めることが不可欠である。

(2) 授業マネジメント

●子どもたちが分かること

本時では「国際交流とは自他の文化を大切にすること」であり、「自分もそれを担う一人であること」である。時計台紙芝居の上映を、子どもたちは「札幌を訪れた外国人のための活動」と捉えている。そこで2つの紙芝居上映写真（①時計台での外国人への上映、②教室での子どもたちへの上映）から、「なぜ札幌の子どもに?」「なぜ子どもに英語で?」という疑問をもつ。

そこから、『ボランティア活動そのものの価値』と『まちのシンボル時計台の価値』を伝えたいという石川さんの意図に気付かせる。真の国際交流は外国の文化だけでなく、自国の文化を知り、それに誇りをもつことも重要であることに気付くのである。

●子どもが分かるための手だて

問題意識を「もたせる」「深める」ことを意図した資料提示を行う。

まず、「時計台で外国人に」「小学校で子どもたちに」上映している2つの写真を比較する。そこから、石川さんの活動そのものへの問題意識をもたせる。

●子どもたちが分かったことを確かめる

後半には2つの資料（外国人観光客の増加のグラフと来札観光客満足度調査）を提示し、「自分なら札幌の何を外国人に伝えるか」を小グループによるシミュレーションを交えながら、具体的に考えさせる。石川さん本人による紙芝居の上映などからも、各自が「国際交流に必要なもの」を追究する。

授業の最後に全員が「分かった」を実感するには、30分を目処に問題を解決する授業マネジメントが求められる。そのためには、まず、「確認」や「意見交換」をねらいとするグループ交流を小刻みに設定する。また、ノートに適宜書く活動を小交流とセットで行うことで、授業の後半に向けて問題意識を高め、全員が安心して取り組めると考えている。

Ⅲ 実践のためのワークシート・資料例

○北海道新聞平成24年4月14日朝刊

札幌農学校2代目教頭ホイラー 同郷の偉人、時計台で実感 米の高校生、紙芝居から

○札幌市 HP 札幌市の観光に関する状況・課題～新たな観光の市場創造に向けて～

http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/news2/documents/2nd_4_problems.pdf